

Title	プロジェクトの報告
Author(s)	川崎, 唯史
Citation	臨床哲学のメチエ. 2011, 17, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/9223
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

プロジェクトの報告

川崎 唯史

1. たかとり教会

まず、神戸のベトナム難民および第2世代の集まるたかとり教会との関わりから。先述した「移民問題についての哲学的研究」の一環として「移民対話コンポ」の実践が目指され、教会に協力する「NGO ベトナム in Kobe」に宛てて2010年1月23日付けで中岡さんから移民対話についての提案がなされた。3月3日にはNGO側の質問への応答を含めた依頼書が中岡さんと高山さんによって提出される。5月6日に中岡さんと高山さんが三浦藍さん(神戸市看護大学)とともに教会の全体会議に出席し、「移民対話コンポーネンツ」への協力を依頼した。5月23日には鷹取コミュニティセンターでのイベント「国際協力デー」に出展し、その後も難民の人々が集まる日曜日に中岡さん、高山さん、服部さんなどが教会を随時訪問している。

とよなか国際交流センターでの「つながりフェスタ2010」では哲学カフェ「オレのことを歌で証明」を開催した(10月24日、進行役:中岡さん)。MC NAM名義で活動するベトナム難民第2世代のラッパーである福山翔

さんを交えて、彼の代表曲「オレの歌」を聴き、対話を交わした。福山さんは11月19日の金曜6限にもお招きし、ラップも交えて臨床哲学のメンバーに難民第2世代としての意見を話していただいた。その後も教会での対話の場を設けるべく、分科会で議論を行っている。

2. 語り合いカフェー箕面市国際交流協会

たかとり教会と交渉する一方で、7月1日には第1回の「在住外国人との語り合いカフェ」が開かれた。これは協会による文化庁委託事業「私は日本で生きています」の一環として臨床哲学研究室の共催で行われたものであり、同月15日には第2回が開催される。テーマが設けられた第3回「母語とは何か」(10月15日、進行役:高山佳子さん)、第4回「多様性は豊かさをもたらすか」(11月5日、進行役:服部佐和子さん)は、ともに分科会での議論を促すカフェとなった。これらをきっかけに、対話コンポ分科会は箕面や豊中でも対話の場を作る方向に本格的に動き始める。

その後、さらなる話し合いのために協会を訪問した(2月15日:本間・高山・服部、3月4日:本間・高山・服部、同24日:本間・高山・川崎、4月8

日：中岡・本間・高山・服部・川崎)。話し合いを経て、2011年度も4回の語り合いカフェを引き続き開催することとなった(すでに2回実施：7月26日に第1回「わたしの見た日本」、9月27日に第2回「あなたの見た私／私の見たあなた」)。カフェの進行役を臨床哲学のメンバーが務めているほか、本間さんは事業の委員として語り合いカフェ以外の事業にも協力している。

3. さんかふえー豊国際交流協会

対話コンポ分科会として関わる以前から、とよなか国際交流センターでは2009年からカフェフィロおよび臨床哲学の協力のもとで定期的に哲学カフェを開催してきた。その縁もあり、豊中での対話コンポ立ち上げの動きは協会への訪問から始まった(2月21日：本間・高山・金・川崎、3月28日：本間・中川・金・杉山・川崎)。

協会職員の方々との話し合いのなかで、まずは協会に関わるボランティアの人たちとの対話の場を持つということで「さんかふえ」(名称は「参加+カフェ」から)の開催が決まった。これまで4月23日と6月11日にオレンジショップで実施されており、6月のさんかふえでは職員のマリアさんが制作した在住フィリピン人を

めぐる映像の上映会という案が出て、8月7日にイベント「映像を見て話そう」として実現した(進行役：本間さん、同日イベント後にさんかふえも開催)。この間、さんかふえの後などに行ったミーティングで、豊中での哲学カフェの後にも小規模な「ミニさんかふえ」を開くこととなった(5月21日、7月16日、9月17日に開催)。「ミニ」も含め、さんかふえの進行役は協会職員の阿部和基さんが担当なさっている。

こうした流れのなか、4月8日の分科会での話し合いを経て、5月19日に本間さんがclphのメーリングリスト上で「外国にルーツをもつ人々との連続対話ネットワーク」形成に向けて呼びかけた。対話コンポはいまだ長い道程の途上にある。

(かわさき ただし)

